

台湾で野球を通じて交流

台湾との交流の新たな1ページ

本市では、国際化が進む社会の様々な分野で活躍できる子どもの育成、交流人口の拡大による地域の活性化を目的に、台湾との交流事業を推進しています。

今回、市内の中学生16人は、昨年12月25日～30日の日程で台湾で開催された「交流自治体中学生親善野球大会」に参加し、台湾の中学生と野球を通じた交流を行いました。

親善野球大会には、交流自治体の杉並区および災害時相互援助協定を結んでいる南相馬市の中学生も参加し、子どもたちは親善試合、交流会などを通じて、お互いに交流を深めたほか、台湾の文化に直接触れ、学び、幅広い視野、国際感覚を養いました。

台湾での交流の様子を紹介します。



日程

- 12月25日 名寄市出発
- 12月26日 台北市立大理高級中学(中等部)と交流
- 12月27日 台湾チームと親善試合
- 12月28日 台湾チームと親善試合
- 12月29日 台湾の歴史遺産などを見学
- 12月30日 名寄市到着



25日
名寄庁舎を出発

台北市立大理高級中学
(中等部)と交流



26日



26日
紙飛行機を飛ばして交流

交流会でヨサコイを披露

26日



27日
台湾チームと2試合

台湾チームと2試合

28日



29日
台北市の中正紀念堂を見学

名寄庁舎で帰国報告会

1月10日



1月10日 名寄庁舎で帰国報告会



▲左から金谷くん、高橋くん、吉田くん、米澤くん、西村くん

金谷くん、高橋くん、吉田くん、米澤くん、西村くんの5人から台湾での野球交流の思い出や今後の抱負などについて語られました。

おもな思い出や抱負

- ・今まで登ったことない高さのビルに登ることができた。
- ・地元の中学生と英語やジェスチャーで野球の話ができてうれしかった。
- ・台湾の中学生は強かったが自分たちの力を発揮でき、いい試合ができた。
- ・体も大きく、バッティングがうまくて驚いた。台湾との力の差はあまり感じられなかった。
- ・今回、参加した仲間とはまたライバル同士に戻るが、この経験を生かし、今年の夏に向けて各チームで頑張りたい。